

3. 河川整備計画の目標に関する事項

3.1 河川整備の基本理念

「人・水・歴史の調和、都市と自然の共存、豊かないのちが輝く大分川」を河川整備の基本理念とします。

今後の大分川の川づくりについては、3つの方針に基づき、地域住民や関係機関と連携を図りながら推進するものとします。

○「安全で安心して暮らせる川づくり」

洪水を安全に流すことができる河道断面を確保して治水安全度の向上を図るとともに、内水被害の軽減を目指します。

また、洪水時の被害を最小限に抑えるために、円滑な情報収集・提供など危機管理体制の充実を目指します。

○「川の恵みを大切にする川づくり」

水需要の増大に対し、適正な水利用を確立するため水利用者と関係機関との連携を目指します。

水不足の解消を図り水資源開発による安定的な水源の確保や良好な水質の維持改善を目指します。

○「安らぎと水と緑にふれあう川づくり」

多様な動植物に配慮した自然環境の保全に努めるとともに、都市部における水と緑のオープンスペースとして、地域住民と行政が一体となり連携しながら、水と緑の安らげる空間づくりを目指します。

3.2 河川整備計画の対象区間

本計画では、下記の図3.2.1、表3.2.1に示す区間を対象区間とします。

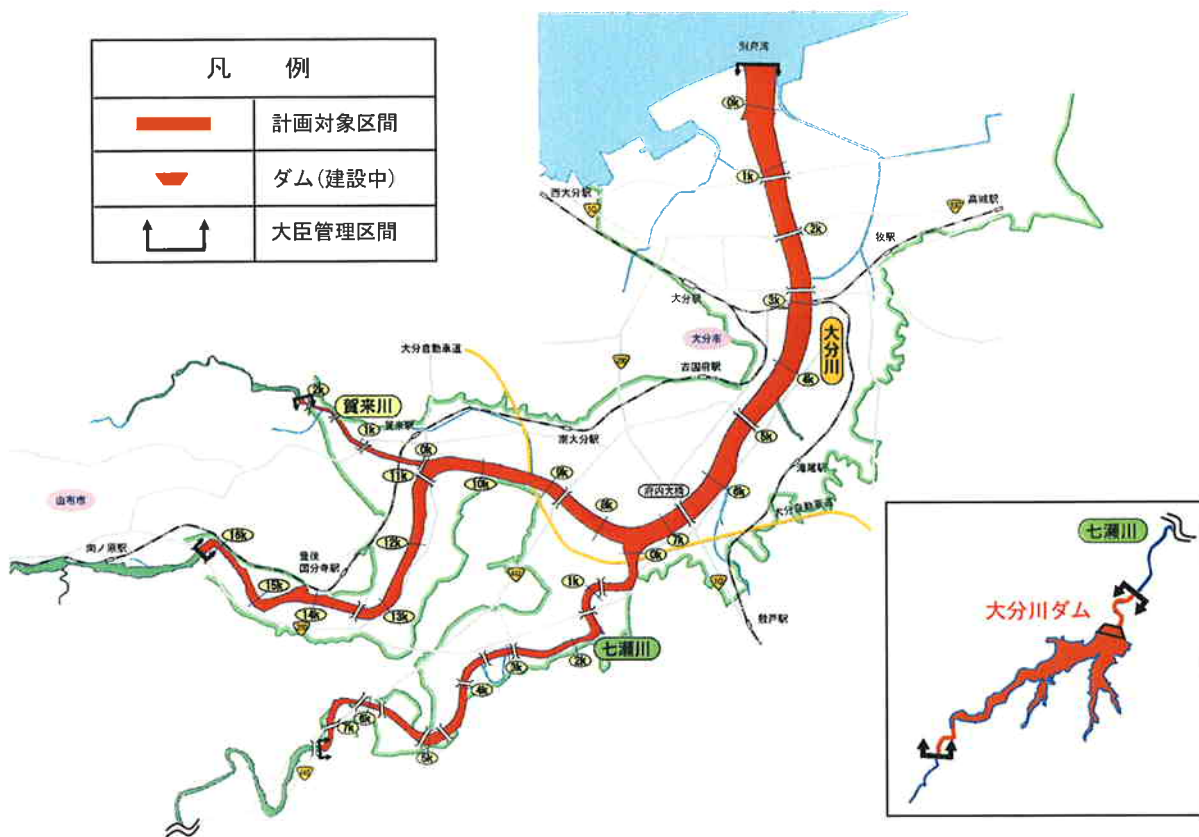


図3.2.1 大分川整備計画対象区間

表3.2.1 河川整備計画対象区間（大臣管理区間）

河川名	上流端	下流端	区間延長 (km)
大分川	大分県由布市挾間町下市277番地1地先の天神橋	海に至る	17.0
七瀬川	大分県大分市大字廻栖野2669番地の2地先の田吹橋	大分川への合流点	7.8
大分川ダム 管理区間	左岸 大分県大分市大字今市106番地先 右岸 大分県大分市大字荷尾杵66番地先	左岸 大分県大分市大字下原164番地先 右岸 大分県大分市大字下原1035番1地先	5.8
賀来川	大分県大分市大字宮苑331番地先の宮苑井堰下流端	大分川への合流点	2.0
河川計			32.6

(出典：河川便覧)

3.3 河川整備計画の対象期間

本計画の対象期間は概ね30年とします。

なお、本計画は、現時点の流域の社会経済情勢・自然環境状況・河道状況等に基づき策定されたものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩、災害の発生状況等により、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。

3.4 洪水、地震・津波等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

3.4.1 洪水対策

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標については、過去の水害発生状況やこれまでの整備状況を勘案し、戦後最大の浸水被害をもたらした観測開始以来最大規模であった昭和28年6月洪水の治水安全度(概ね70年に1回の確率で発生する洪水規模)を確保することとし、大分川本川においては府内大橋地点で $5,300\text{m}^3/\text{s}$ 、支川七瀬川においては $1,300\text{m}^3/\text{s}$ 、支川賀来川においては $710\text{m}^3/\text{s}$ に対応することを本計画における目標とします。

さらに、既存の堤防については、洪水における浸透や侵食に対する所要の安全性を確保することとします。

また、内水被害が発生する区域においては、土地利用状況、内水被害状況を踏まえ内水対策に努めます。

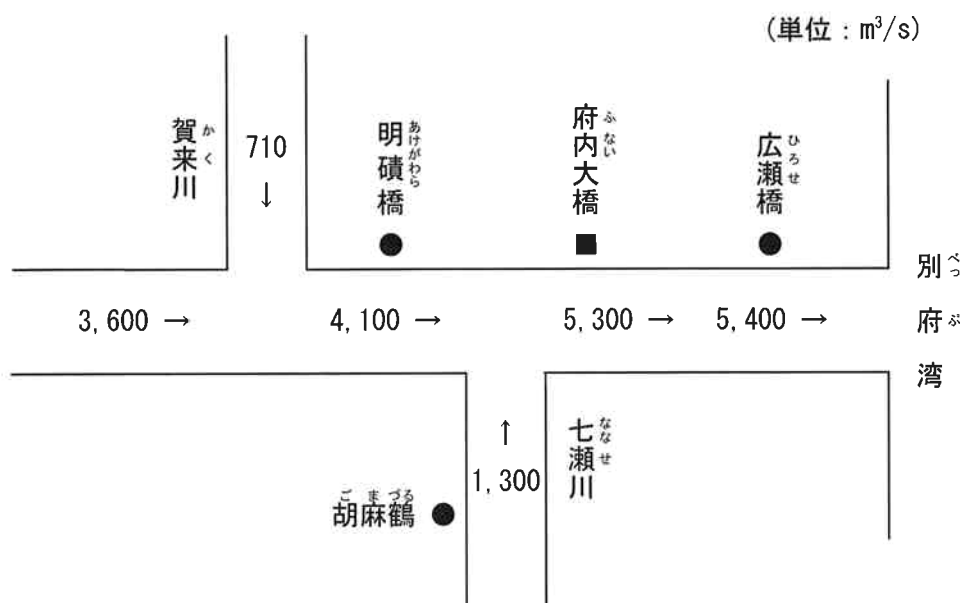


図3.4.1 整備目標流量配分図

表3.4.1 河川整備計画において目標とする流量

河川名	目標流量	地点	備考
大分川	5,300m ³ /s	府内大橋	概ね70年に1回の確率で発生する洪水規模
七瀬川	1,300m ³ /s	胡麻鶴	〃
賀来川	710m ³ /s	宮苑	〃

3.4.2 地震、津波対策

地震発生により基礎地盤の液状化などが発生し、堤防が沈下した場合にも浸水による二次被害等の防止・軽減に努めるとともに、津波対策の検討を進めます。

3.5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

河川水の利用に関しては、新たな水資源開発を行うとともに、広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、都市用水及び農業用水の安定供給に努めます。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して、府内大橋地点において概ね $6.6\text{m}^3/\text{s}$ を確保することを目指します。

また、渇水等の発生時の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制を整備するとともに、水利使用者相互間の水融通の円滑化に向けた取り組みを関係機関及び水利使用者等と連携して推進します。

表3.5.1 河川整備計画において目標とする流量

地 点 名	期 別	流 量
府内大橋地点	通 年	概ね $6.6\text{m}^3/\text{s}$

3.6 河川環境の整備と保全に関する目標

河川の空間の利用に関しては、生活の基盤や歴史、文化、風土を形成してきた大分川の恵みを活かし、自然とのふれあいや環境教育の場など多様な利活用が推進されるよう、都市部における水と緑のオープンスペースとして、人々が親しめる河川空間の整備を目指します。

また、水辺空間に関する多様な住民のニーズを踏まえ、自然環境との調和を図りつつ、適正な河川の利用に努めます。

良好な景観の維持・形成に関しては、都市部において人々に安らぎを与える周辺地域と調和した河川景観の維持・形成を目指します。

自然環境に関しては、治水、利水との調和を図りつつ、アユ等の良好な産卵場である七瀬川合流点や汽水域特有の多様な生物が生息する干潟やヨシ原などの豊かな動植物の生息・生育環境に出来る限り配慮します。

水質に関しては、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、現状の良好な水質の保全に努めます。